

戸主権ノ喪失

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/519

戸主権ノ喪失

法典調査會

第三節 戸主権ノ喪失

(理由) 戸主権ハ一家組織ノ至重ノ要素ニシ
 テ戸主ニ屬スル公私ノ權利義務ハ即チ戸主
 権ノ得喪ニ因リテ發生又ハ消滅スルモノナ
 シハ戸主権ノ得喪ハ極メ之ヲ明確ナラシ
 ムルコトヲ要ス然レトモ一家ヲ創立シ又ハ
 分家ヲ為スコトニ因リテ戸主権ヲ取行スル
 カ如キハ必ズ法律ノ規定ヲ要セ又家督相
 繼ニ因リテ戸主権ヲ取行スルコトハ相繼編
 ノ規定ニ依リテ明白ナレハ戸主権ノ取行ニ
 關シ殊更ニ本章ニ於テ規定ヲ設クル必要ナ
 シ之ニ及ビテ戸主権ノ喪失ニ付テハ其原因
 種々ニシテ法律ノ明文ニ依リ特ニ之ヲ規定

法典調査會

スルコトヲ要スル事決シテ少カラス而シ
 テ死亡失踪、女戸主ノ結婚、入主戸主ノ離婚ノ
 如キハ總テ戸主権喪失ノ原因タルベシト虽
 モ此等ハ別ニ明文ヲ以テ之ヲ規定スル必要
 ナキニ及ビ戸主カ隱居ヲ為シ又ハ一家ヲ廢
 絶セシムルコトニ因リテ戸主権ヲ喪失スル
 場合ノ如キハ他ニミテ規定スヘキ適當ノ場
 所ナキヲ以テ本章ニ於テ豫メ其規定ヲ設ケ
 隨意ニ戸主権ヲ喪失シテ濫リニ公私ノ利益
 ヲ害スルコト勿カウシムルコトヲ要ス是レ
 即チ本章ハ改定府縣ニ其例ナキニ拘ハラズ
 本章ノ規定ヲ設ケ戸主権喪失ノ原因トシテ

殊ニ規定ヲ要スルモノヲ掲グル所以ニシテ
 就中陸辰ニ関スル規定ハ既成法典ニ於テハ
 之ヲ財産取戻權ニ掲ケテ家督相続ノ原因
 ト認メルカ如シトモ陸辰ハ即チ戸主權喪
 ノ直接原因ニシテ之ニ因リテ相続開題ヲ生
 ゼシムルモノナシハ本等ハ戸主權ノ喪失ニ
 関スル本節ニ於テ陸辰ニ関スル規定ヲ掲ケ
 其相続ニ関スル所ハ之ヲ相続編ニ掲グルコ
 トニ為セリ

第七節 戸主ノ條件ノ具備
 スルニ非ナシハ陸辰ノ爲メトテ得ス

- 一 満二十年以上十ムコト
- 二 完全ノ能力ヲ有スル家督相続人カ相
 續ノ單純承認ヲ爲スコト

法典調查會

(理由) 本條乃至第七條ニテ二條ハ隱居ノ関
 スル規定ニシテ就中本條ハ既成法典財產取
 得編第三節ニ條ニ條正リ加ヘ隱居ヲ爲スニ
 必要ナル法律上ノ條件ヲ指定セリ蓋シ一家
 ノ戸主タル者ヲ自己ノ安逸ヲ計リテ隨意ニ
 戸主權ヲ讓リ或壯少有爲ノ戸主ヲ隨意ニ隱
 居ラ爲シテ其力ヲ公私ノ利益ニ盡サバハ力
 如キハ家族制度ノ本旨ヲ推スニ至一般經
 済上ノ利益ヲ見ルモ決シテ稍過スベキモ
 ノニ非ス又戸主カ隱居ヲ爲ス以上ハ戸主ト
 ハ身分ニ於テ負擔スル義務ハ總テ之ヲ免ル
 ハコトヲ得ヘキモノナシハ苟モ戸主カ隨意

法典調查會

二 隱居ヲ為スコトヲ獨人ニ放テハ之ヲ為メ
 二 侵權者ニ不慮ノ損害ヲ被ラセリト決
 二 テテ少シトセズ故ニ隱居ハ法律上之ヲ認メ
 二 カハヲ以テ至當ト為入トノ立法論ナキニ非
 二 スト云モ我國ニ於テハ夙ニ隱居ノ風習公行
 二 一 朝之ヲ禁止スルハ頗ル妥當ナリカレハ
 二 一 ナリ又實際上海主タル位置ニ堪ヘカレ理
 二 由アリ為ラレテ強ヒテ戸主タラシムルハ其
 二 當ヲ得サハニ因リ才業ハ既成強曲ノ如ク法
 二 律上隱居ヲ為スコトヲ公認スト莫モ豫メ其
 二 要件ヲ指定ミテ適当ノ制限ヲ加ヘ隱居ノ制
 二 度ニ因リテ生ズル種々ノ弊害ヲ豫防セリ

之に隠居ヲ為スに必要ナル條件に關し既成
 法典に多少ノ修正ヲ加ヘタル點を説明セ
 ン

一 壯年ノ戸主フシテ隠リに隠居ヲ為サシム
 ルノ不得業ニシテ且不必要ナルコトハ言
 フヲ要セサル所タルニ因リ相當ノ老年ニ

法典調査會

一 連スルニ非サレハ隠居ヲ為スコトヲ得サ
 ラシムルハ同ヨリ至當ノ制限タルベシ而
 シテ此年齡ニ有テハ或ハ七十歳トシ或ハ
 八十歳ト為ス先例アリトモ一般ニ我國
 人民ノ心身衰耗ノ狀況ニ徴スルトキハ既
 成法典ノ如ク滿二十歳リクニ隠居年齡ト

法典調査會

為スコト其爲ヲ得タルモノト認めんニ因
 リ本案ハ即チ此例ニ從フト雖モ既成法典
 ノ如ク隱居ヲ以テ本人ノ任意ニ出ツルコ
 トヲ要スル旨ヲ明示スルハ言フヲ要セザ
 ル所多クニ因リ本案ハ別ニ此要件ヲ掲ケ
 之ヲ却テ隱居ノ取消ヲ規定スルニ當リ
 本人ノ任意ニ出テサル隱居ハ之ヲ取消ス
 コトヲ得ヘキ者ヲ認め之ニ依リテ立法上
 ノ恣裁ト實際ノ必要ニ適セシメたり

二戸主ニハ身分ニハ特別ノ權利義務ノ伴フ
 モノナレハ戸主カ隱居ヲ爲スニ當リテハ
 此等ノ權利義務ヲ継承シテ一家ノ長トシ

「堪」ハ有力單純ニ家督相続ヲ為スコト
ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ既成法典ノ如
ク右ノ場合ニ於テハ實際家政ヲ執ルノ能
カヲ人々家督相続人ノ存スルコトヲ必要ト
為スル相続人多ク者ノ條件頗ル嚴ニ失シ
且實際家政ヲ執ルニ堪ユルヤ否ハ甚々
判別ニ難キヲ以テ本章ハ單ニ完全ナル能
カヲ有スル家督相続人タルヲ以テ足レリ
トシ其能力有ナシト無能力者ナルトハ能
カニ關スル終則編ノ規定ニ從ヒ之ヲ定メ
シムルモノト為セリ其他既成法典ハ家督
相続人カ單純ノ受諾ヲ為スコトヲ要スト

ニフコ止マルト虽モ之ニ因ヨリ相續ニ関
スルモノナレハ本聲ハ明カニ相續ノ單純
義認ヲ為スコトヲ要ストシ單純義認ノ何
々んヤハ相續編ノ規定ニ依リテ明白ナラ
シムルモノトス

三、既成法典ハ隱匿ヲ為スニ付キ必ズ配偶者

法典調査會

ノ義認アリニトテ要セリ之レ戸主カ戸主
権ヲ喪失スルニ付テハ其配偶者モ亦初審
關係ヲ有スルコト甚々大ナシニ因リ親人
安否ノ規定ナル可シト虽モ法律上ノ通則
トシテ此條件ヲ掲グルハ其當リ得ルモノ
ニ非ズ何トナレハ戸主ニ夫ヲシテ其

法典調查會

妻ノ承諾アリト非サレハ隠居ヲ為スコト
ヲ得サラシムル如キハ我國ノ人情風習ニ
適ヤサルノミナラズ隠居ヲ為サレトスル
戸主ハ必ズ其配偶者タルニ限ラサレバナ
リ且有夫ノ女戸主カ隠居ヲ為スニ當リ此
者ヲシテ其夫ノ承諾ヲ求メシムルハ至當
ノ制限タルベキニ因リ本案ハ配偶者ノ承
諾ヲ以テ隠居ヲ為スニ必要ナル條件ノ通
則ト為サスニテ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ為
ス場合ニ於テ此條件ヲ必要ト為セリ

第七百五十一條 戸主カ疾病等家ノ相續又ハ
再興其他ニ因リコトヲ得サル事由ニ因リテ兩
後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ
ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得

「隠居」為スコトヲ得但決定ノ推定家督相
續人アウサントキハ豫メ家督相續人タルベ
キ者ヲ定メ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

(理由) 本條人既成法典財産取得編第三七
條ト同一ノ趣旨ニ基ツクト虽モ聊ヲ適用ノ

範圍ヲ擴張ヤリ抑ミ法律上隱居ナルモノヲ
公認スル所以ハ主トシテ實際家政ヲ執ルル

コト能ハサルハ状態ニ基テ主ヲ主トシ

法典調査會

殊ニテ戸主ヲウシムルハ却テ實際上ニ不利

不便ヲ與フルニ過ヤサニ因リ右ノ事由ノ

存スル以上ハ隱居ヲ為スコトヲ得セシムル

ヲ以テ至當ト認メタルニ因リ故ニ本案ニ

亦既成法典ノ如ク戸主力疾癩本家相續其他

營業上ノ必要公務上ノ理由ノ如キ止ムコト

法典調査會

ヲ得サル事由ニ因リ實際家政ヲ執ルコト能
 ハサル状況ニ立至リタルトキハ隠居ヲ為ス
 ニ必要ナル条件ヲ具備セムコト隱居ヲ為ス
 コトヲ許ストモ既成法典ノ如ク此等ノ事
 由ノ存スルトキハ寧ニ年齢ノ条件ヲ省略ス
 ルコトヲ得ルニ止ムンハ聊カ拙キニ失スト
 云ハサルヘカウス何トナレハ牙家相續ノ場
 合ノ如キハ完全ナル能力アル家督相續人ナ
 キニ拘ハラズ他家ノ正主ヲモテ本家ヲ相續
 セルムン必要アルニ因リ此ノ如キ場合ニ於
 テハ寧ニ年齢ノ條件ヲ省略スルニ止コウサ
 レバナリ故ニ本輩ハ本輩ハ本條ノ場合ニ於

ラハ隠居ノ要件ニ關スル前條ノ規定ニ拘ハ
 ラズ隠居ヲ為スコトヲ得トシ其適用ノ範圍
 ヲ適當ニ擴張人ト雖モ之カ為メニ一家新統
 ノ結果ヲ生ゼシムルカ如キハ固ヨリ之ヲ制
 止セサルベカラサルニ因リ特ニ但書ノ規定
 ヲ設ケテ致セラズ此聲十カラニメタリ

法典調查會

其他隱居ニ關スル事項ハ從來行政官廳ノ管
 轄ニ屬セシト雖モ隱居ヲ為スコトハ本人其
 他利害關係人ノ權利ニ重要ナル關係ヲ有シ
 且本條ノ場合ノ如ク法定ノ要件ニ及ビテ隱
 居ヲ為スニ當リテハ其原因タル事由ノ確實
 ナルコトヲ保テ濫リニ公私ノ利益ヲ害スル

ハル既成該典ノ例ニ倣ハサルモノトス

第七百五十二條

(理由) 戸主殊ニ女戸主カ婚姻ニ因リテ他家

ニ入リトスルコトハ實際上往々見ル所ニ

ミテ家ヲ重シジ戸主タハ位地ヲ忽カセミス

ハコト分カウシメントスル趣旨ニ拘泥スル

コト勿カウシメサルベカウザンニ因リテ家
ハ固ヨリ既成該典ノ如ク本條ノ場合ニ於テ
ハ裁判所ノ許可ヲ必要ト為スト虽モ裁判所
ノ管轄権限ニ至リテハ裁判所構成法ニ於テ
之ヲ規定スヘキニ依リテ案ハ本條ニ據リル
事項ヲ以テ直々ニ正裁判所ノ管轄ニ屬セシ

スルトキハ或ハ戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ
入ルコトヲモ禁セザルベカラズト云々之レ
頗ル人情ニ及ニ實際ノ事情ニ適セザルノミ
ナラス既ニ法律上女戸主ノ存在ヲ認マリ以
上ハ此有カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ
得ストセハ其結果殆ニト女戸主ヲレテ婚姻

ヲ為スコト能ハサハ事情ニ陷ラレムニ至
ラニ何トナレハ女戸主カ他ニ婚嫁スルコト
ハ容易ナルモ入夫ヲ迎フルコトハ實際甚ク
困難ナレハナリ故ニ男女兩戸主カ互ニ婚姻
ヲ為ニ或ハ戸主カ他家ノ者ト結婚ニテ他家
ニ入ルコトトニテ許サハルベカラズト云々

此場合ニ於テハ他家ニ入ラントスル者ハ自
 家ノ戸主タル權利ヲ失ハザルベカラザルハ
 当然ニシテ此事タルヤ一身一家ノ利害ニ重
 大ナル關係ヲ有シ且隱居ノ要件ヲ具備セズ
 シテ戸主權ヲ喪失スルモノナレハ濫リニ此
 結果ヲ生スルコト勿カラシムルコトヲ要ス
 之レ本案ハ改定法典ニ其例ナシト虽モ時ニ
 本條ノ規定ヲ設ケ戸主ノ婚姻ニ因リテ他家
 ニ入ラント欲スルトキハ依モ前條ノ場合ニ
 於ケンカカク隱居ノ要件ヲ具備セザルモ裁
 判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ為シ然レ後他家ニ
 入ルハキモト爲ス所以ニシテ即チ本條ノ

事由ヲ以テ隠居ヲ爲スニ止當ナル理由ト認
ムト虽モ婚姻ハ前條ニ所謂已々コトヲ得サ
ル事由中ニ包含セサルニ因リ別ニ本條ノ明
文ヲ掲グルモノトス

第七百五十三條

(理由) 女子ト虽モ戸主タルコトヲ得ルハ法

法典調查會

律ノ認ムル所ナリト虽モ從來ノ風習並ニ一
家組織ノ必要ヨリ見ルモ又婦人其夫ニ從順
タハコトヲ要ス或ハ女子ハ家督相續ノ順位
ニ依テ男子ノ後ニ立タルカハ一方カ人立法
ノ本旨ニ徴スルモ女戸主ハ變則ニシテ通常
男子カ戸主タルベキハ疑ナキ所トス故ニ女

子カ一且戸主ト爲リタルモ完全ノ能力ヲ有
 スハ家督相続人カ相続ノ單純承認ヲ爲ス以
 上ハ女戸主ノ年齡カ滿六十歳ニ達セザンモ
 戸主權ヲ讓リテ退隱スルコトヲ得セザリハ
 ハ却テ立法ノ本旨ニ適シ實際ノ必要ニ適ス
 ルモノトハ之ヲ存留第一項ハ女戸主カ隱居
 シ爲スニ當リテハ年齡ニ關スル法定ノ要件
 ニ從フコトヲ要ヤスト爲ス所以ナリ
 三ニ及ビテ隱居ヲ爲スニ必要ナル條件ノ通
 則トシテ配偶者ノ承諾ヲ其中ニ加ヘザルコ
 トハ既ニ第七百五十條ニ於テ説明セシ如ク
 ナリト雖モ有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニ當

法典調査會

リラモ者ノ通則ニ從ヒ配偶者ノ承諾ヲ要セ
 スト爲スニ於テハ夫婦ノ倫序ニ悖リ一般ノ
 風習ニ及スルノミナリ夫婦ノ其夫ニ從順シ
 ルコトヲ要スル義務ヲ盡サバ可シ云ハモノ
 ナシハ本條中ニ項ハ有夫ノ女子主カ隠居シ
 爲スニハ其夫ノ承諾ヲ要ストシ即チ第七項
 出テ條ニ掲ケル所ノ要件以外ニ特別ノ要件
 ヲ加ヘヨリ然レドモ右ノ場合ニ於テ夫ハ自
 己ノ利益ノ爲メニ或ハ不正ノ事由ニ基キ其
 承諾ヲ與フルコトヲ拒ミ之カ爲メニ隱居シ
 爲スニ必要ナル他ノ條件カ具備シ且實際隱
 居ヲ爲スコトヲ得セシメサルベカラザル事

第七百五十四條

情ノ存スルニ拘ハラフニ女戸主ヲシテ隠居ヲ
為スコト能ハサラシムル聲ナレトセズ之レ
本條ヲ二項但書ノ規定ヲ設クム所以ニシテ
夫カ正當ノ理由ナクシテ其婦人ハ戸主カ隠
居ヲ為スコトヲ拒ムトキハ女戸主ハ裁判所
ニ請求シテ夫ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得ベシ

理由 本條ハ隠居ノ効力發生ノ時期ヲ規定
スルモノニシテ設成法典財產取得編第三卷
十條及ヒ第三卷十一條ヲ修正セリ即チ設成
法典ノ規定ニ依リハ隠居ノ効力發生ノ時期
ハ顯ハ瞭明ニシテ第三卷十條ニ於テハ身分

法典調查會

取扱吏ニ届出ラタハ時ヲ以テ効力發生ノ時
 期ト爲スモノノ如リ而シテ第三和十一條ニ
 施シハ右届出前ノ利寬國領人ノニニ對シテ
 ハ第三和八條ニ掲グル所ノ故障期間満限ノ
 時又ハ故障ノ棄却ヲ確定セリハ月ヲ以テ初
 力發生ノ時期ト爲スモノナシハ其結果ハ即
 チ或人ニ對シテハ相續人ヲ戸主タルニ或人
 ニ對シテハ隱居ヲ尙ホ戸主タルノ如ク實際
 上頗ル煩雜ナシ國領人生スルコトヲ免レガ
 ハベシ故ニ隱居ノ効力發生ノ時期ハ既成法
 典ノ如ク之ヲ二般ニ分ケコトハ其當ヲ得サ
 ハモノニシテ寧ロ其等モノ如ク雖一ノ時期

の指定スルヲ以テ至當ト認ムルニ因リ本掌
 ハ即チ隠居者及ヒ其家督相繼人ヨリ戸籍更
 ニ届出テタル時ヨリ隠居ノ効力ヲ發生スル
 モリト爲マシ蓋シ此主義ハ婚姻縁組等ニ通
 シテ一般ニ本掌ノ採用スル所ニシテ最ニ実
 際ノ事情ニ適スルモノト云フベシ

法典調査會

本條即ニ隱ハ改定法典ニ其例ナシト虽モ此
 ニ豫想スル事項ハ實際上往々發生スル事實
 ニシテ此場合ニ於テハ戸主タル覺悟ト婚姻
 トヲ相兩立セシムルノ不當ナルコト固ヨリ
 論ラ俟タサル所ナレハ戸主ヲシテ隠居セシ
 ムルカ將テ婚姻ヲ取消サシムルカニ付テ孰

レカ其一ウ堪マサハデカウス而レテ一旦成
立レテハ婚姻ヲ取消サレハレトハ何レノ
点ヨリユツ見ハモ許スベカウサルニ因リ本
條ヲ二項ハ戸主ハ婚姻ノ日ニ既に隠居ウ為
レテハモト看做レシ之ニ依リテ實際ノ事情
ニ適セシメテ

法典調査會

第七百五十五條

(理由)

既成法典財産取得編第三百八條ハ隠

居ニ有テ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨ヲ

認ムルモノニシテ立法ノ本旨ハ固ヨリ至當

ノ事ニ屬スト虽モ故障ノ效力ニ關スル立法

本法主義ハ判然タラサルカ如シ即チ故障ノ

法典調査會

申立ハ隠居ノ成立ヲ妨グルカ如シト虽モ才
 三百十條ノ規定ニ依リハ故障ノ有無ニ拘ハ
 ラズ届出ニ因リテ隠居ハ成立スルモノノ如
 クナレハナリ而シテ本條ハ既ニ前條ニ於テ
 隠居ハ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルニ因リテ其効
 カヲ生ズベキコトヲ確定シタルヲ以テ隠居
 ヲ為スニ必要ナル法定ノ條件ヲ缺キタル場
 合ニ於テハ既ニ成立シタル隠居ヲ取消スコ
 トヲ得ヘキモノトシ取消ノ效力ハ法律行為
 ノ取消ニ類スル総則編ノ通則ニ依リテ之ヲ
 定メシメルモノニ之テ之ニ依リテ立法主義
 ヲ明瞭タルニ由ルト同時ニ隠居ヲ為スコト

ニ付キ利害關係ヲ有スル親族及ニ女戸主ノ
天ノ利益ヲ保護シ且公私ノ利益ヲ保護スル
族事ヲシテ右ノ取柄權ヲ行フコトヲ得ヤ
ムトモトス

本條ヲニ項ハ既成法典財產取得編第ニ百九
條第一項ノ範圍ヲ縮小ニ女戸主カ其夫ノ承

法典調査會

讓ヲ得スレテ隱居ヲ為シタル場合ニ限ルモ
ノニシテ之レ本條ハ既ニ第七百五十九條ニ於
テ説明セシ如ク一般ニ配偶者ノ承諾ヲ以テ
隱居ノ要件ノ通則ト為サベリシ当然ノ結果
タルニ過キス

第七百五十六條

、

(理由) 隠居ハ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要

スルハ別ニ法律ノ明文ヲ俟タサル所ニシテ

家督相続人ヲ相続ノ單純承認ヲ為スコトヲ

以テ隠居ノ要件ト為スコトハ既ニ第七百五

十條ノ明示スル所ナレハ第七百五十四條ハ

即チ隠居ノ其効力ヲ生スルニハ隠居者及ビ

家督相続人ヨリ隠居ノ届出ヲ為スコトヲ必

要トセリ然ルニ隠居者又ハ家督相続人ノ訴

欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ為スニ至

リタルコトハ實際上往々ニシテ存スル所

ナレト斯ノ如ク本人ノ任意ニ出テサル隠居

ハ之ヲ取消スコトヲ得セシムルヲ以テ至當

トス而シテ既成法典財産取得編第三百八條
 第二項ハ任意ニ出ラサル隱居ニ付テハ隱居
 者ニ於テ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨ヲ
 認リト虽モ家督相統人ニ付テ之ヲ認メサル
 ハ其缺點ト云ハサルベカラザルニ因リ本條
 ハ家督相統人ニモ隱居ノ取消權ヲ行フコト
 シ得セシメ且既成法典ノ如ク故障期間ヲ以
 テ僅ニ隱居届出ノ日より三十日ト爲スハ短
 期ニ失スル弊アルニ因リ本條ハ隱居者又ハ
 家督相統人カ其詐欺ニ陷リタルコトヲ發見
 シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居
 ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ

法典調查會

其他詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲
セタルモ本人力此隱居ヲ追認スル以上ハ強
迫ニテ之ヲ取消サシムヘキ必要ナキヲ以テ本
筆ハ時ニ本條但書ノ規定ヲ設ケ本人力追認
可爲セタルトキハ以後隱居ノ取消ヲ請求ス
ルコトヲ得サル旨ヲ明カニセリ

隱居ヲ爲スコトハ公私ノ利益ニ種々ノ関係
ヲ有スルモノナレハ既成既典財産取得編第
三百八條第一項ハ隱居者ノ親族及ト族事ニ
モ隱居ニ付テ故障ヲ申立ツル權利ヲ認ムル
モノニテテ本筆モ亦本條第二項ニ於テ此等
ノ者ニ隱居ノ取消權ヲ與ヘタリ然レトモ隱

族者エハ家督相続人ヲ詐欺ニ因リテ隱匿ノ
席 届出ヲ為シタハコトヲ知リ又ハ隱匿ノ
届出ヲ為スコトニ強要セウレタシモ既に此
強迫ノ状態ヲ免レテ隨意ニ隱匿ノ取消ヲ請
求スルコトヲ得ル状態ヲ復シタルニ拘ハラ
ズ敢テ其取消ヲ請求セサルニ於テハ假令多
少ノ利害關係ヲ有スル親族又ハ公親ノ利益
ヲ保護スル族事アリトモ他ヲリ隱匿ノ取消
ヲ請求シテ却テ害事起ル意思ニ及スル結果
ヲ生ゼシムベキニ非ズ故ニ既成法典ノ如ク
任意ニ出テサル隱匿ニ付キ本人カ別ニ故障
ヲ申立テ為サハルニ拘バラス親族又ハ族事

ヨリ隨意ニ故障ヲ申立ツルニトテ得ルニハ
ハハ往々本人ノ意思ニ及シ濫リテ私事ニ干
渉セシムル弊ヲ免レサルモノコシテ要スル
ニ隱居ヲ為スニ付テ最モ利害關係ヲ有スル
者ハ本人及ヒ其家督相續人ナレハ此等ノ者
カ別ニ任意ニ去リサレ隱居ノ取消ヲ請求セ
サル限りハ他ヨリ之ヲ取消サシムル必要ナ
カルヘシ且隱居者又ハ家督相續人カ隱居ノ
届出ハ詐欺ニ同リテ之ヲ為サシメテ去レ
コトヲ知ラズ又ハ隱居ノ届出ヲ為スコトニ
強要セラレタル強迫ノ状態力尚ホ存續スル
間ハ親族又ハ族事ヲシテ隱居ノ取消ヲ請求

法典綱查會

スハコトヲ得セシムルハ當事者ノ利益ノ爲
 ヲ其他公私ノ利益ノ爲ト其必要アルモノナ
 レハ本條第二項ハ即チ隱居者又ハ家督相続
 人が詐欺ヲ發見セズ又ハ強迫ヲ免レサル間
 ハ其親族ニハ族事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求ス
 ハコトヲ得ルモノト爲セリ加之假令親族又
 ハ族事が右隱居會ニ於テ隱居ノ取消ヲ請求
 スルモ隱居者又ハ家督相続人ノ其任意ニ出
 テサル隱居ヲ追認スルトキハ他ヨリ強ヒテ
 隱居ヲ取消サレリベキ理由ナリ寧レ當事者
 ノ意思ニ從ハシメザルヘカウサレト因リ本
 條第二項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケ隱居者又

ハ換事ノ隱居取消權ハ消滅スヘキ旨ヲ助力
ニセリ

其他隱居ノ取消ハ戸主権ノ所在ヲ變更セシ
メ種々ノ法律關係ニ重大ノハ關係ヲ有スル
モノナレハ隱居ノ届出ニ付キ如何ナル事情
ノ存セムニ拘ハラス右ノ取消權ヲシテ永ク

法典調査會

存立セシムコトハ法律上ノ室障ニ於テ其
當ヲ得タルモノニ非ス是レ即チ本條第三項
ハ隱居ノ取消權ノ消滅ニ付キ特別時效ヲ定
ムル所以ニシテ隱居届出ノ日より十年内ニ
非サレハ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得サ
ルモノト爲セリ

第七百五十七條

(理由) 隱居ヲ為シ又ハ之ヲ取消スコトハ隱

居者ノ優權者又ハ家督相續人ノ優權者ニ對

シ重要ナル利害關係ヲ有スルニ拘ハラフニ該

成法典ハ此等優權者ノ利益ヲ保護スルニ付

オ別ニ規定ヲ設ケサルハ其不備缺點ト云ハ

法典調査會

サシメカフニ故ニ本案ハ先ハ隱居ノ取消ニ

関スル規定ニ連續シテ本條ノ規定ヲ設ケ隱

居取消ノ場合に於ケル優權者ノ利益ヲ保護

スルモノトス

隱居取消以前ニ家督相續人即チ其當時ノ戸

主ナル者トシ關係上此者ニ對シテ優權ヲ取

得る人なり多し存る人コトハ更ニ言フヲ要
セサル所ニシテ此等ノ者ハ通常其相手方カ
戸主タル身分ヲ有スルコトニ重キノ點ナリモ
ノナレバ一朝隱^原取消ニ因リテ隱居者カ戸
主ニ復シ右ノ相手方オ戸主タル身分ヲ失シ
テ家督相続人タル位置ニ復シタル場合ニ於
テ前ニ戸主タル身分ニ於ケル家督相続人ニ
對シテ權利ヲ取得シタル後權利カ隱居ノ取
消ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ對シ其權利
ヲ行フコトヲ得サルニ於テハ往々不慮ノ損
害ヲ被ルルコトアリハ故テ親朋ヲ要セサル
ベシ故ニ隱居取消ノ場合ニ於テ後權利アリ

蓋し保護し取引ノ安全ヲ保ミシトスルニハ
 隱匿ノ取消以前ニ家督相続人即チ其當時ノ
 戸主タル者ノ保護者ト爲リタル者ニ對シ
 居ノ取消ニ因リテ戸主ニ復シタル者ニ對シ
 辨済ノ請求ヲ爲スコトヲ得セシムルノ外ナ
 キヲ以テ本條第一項ハ此趣旨ヲ明示スルノ
 ミナラズ且此規定ノミヲ揭グルニ止ムル
 トキハ保護者ハ爾後家督相続人ニ對シテ其
 權利ヲ行フコトヲ得サルナリ疑フ生セシム
 ルハ同リ本條第一項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設
 ケ保護者ハ家督相続人ニ對シテモ辨済ヲ請
 求スルコトヲ得ヘキ旨ヲ明カニシテ依リ

「債權者」利益の充分に保護スルモノトス
然レトモ債權取得ノ當時ニ隱居ノ取消原因
ノ存スルコトヲ知りタルトキハ家督相続人
ノ戸主トシテ身分ニ重キヲ置カスニテ却テ家
督相続人ノ身上ニ着眼シ後日隱居ノ取消力
行ハルモ自己ノ利益ニ關係ヲ有セサルコ

トヲ豫期セシモノト云ハサルヘカウサント
因リ斯ノ如キ債權者ニ對シテハ亦條件一項
ニ掲グル所ノ特別保護ヲ與フハ必要ナレ故
ニ亦條件ニ項人債權取得ノ當時隱居ノ取消
原因ノ存スルコトヲ知りタル債權者ハ家督
相続人ニ對シテノニ辨済ノ請求ヲ為スコト

ヲ得トシ三ニ依リテ法律保護ノ適度ヲ保タ
 シムルモノトシ其他亦項未段ニ規定スル所
 ノ家督相続人ノ一身ニ專屬スル債務ニ存ス
 ハ其債權者ハ亦家督相続人ニ對シテノ之を請
 ノ請求ヲ為スコトヲ得んニ止ムルベキハ別
 ニ説明ヲ要セサルベシ

法典調査會

第七百五十八條

理由 本條ハ家ヲ重シムル旨ノ本旨ト從
 未ノ慣例トシ參酌シテ戸主ノ任意ニ出ラサ
 ル債務ヲ為サシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ認メ
 且ツ此事タルヤ極メテ重大ナル事件タルニ
 拘ハラス実効ニ種々ノ弊害ヲ生セシムルニ

因り妬ノ隱戚ヲ為サレタルニ付キ必要ナル
 條件ヲ指定スルモノトス蓋シ戸主ハ一家ノ
 存立トシテ家長ノ位置ニ立ツモノナレハ眾
 ニ戸主タル者カ其任ニ適セサ人ニ因リ一家
 ノ存立ヲ危カラシムル如キ事由ノ存スル場
 合ニ於テハ一家ノ長タル戸主ト雖モ之ヲ廢
 シテ適當ナル相繼人ヲ立テ一家ノ存立ヲ安
 全ナラシムルコトヲ要ス之ニ家ヲ以テ社会
 ノ基礎ト為ス国家主義ノ當然ノ結果ニシテ
 一家ハ戸主ノ為メニ存スルニ非ス之ヲ戸主
 ハ一家ノ為メニ存スルモノナレバナリ然レ
 トモ戸主ヲ廢スルコトハ承人ハ勿論其家ニ

取り並ニ利害關係人ニ取りテ重要ナル關係
 ヲ有スルモノナシハ輕易ナル事由ニ基キ濫
 リニ戸主ヲ廢スル如キハ決シテ許スヘカウ
 ガル所ナリト虽モ法律上豫メ其事由ヲ指定
 スハコトハ却テ實際ノ事情ニ適セザル虞ア
 ルニ因リ本條第一項ハ即チ一家ノ爲メ重大

法典調查會

ナル事由アルトキニ限り戸主ヲシテ其意ニ
 反スルモ隱居ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキモ
 ノトシ且斯ノ如キ強制的ノ隱居ハ一私人ノ
 カニ依リテ之ヲ爲サシムルコトヲ得サルノ
 ミナラズ更ニテ一家ノ爲メ重大ナル事由ノ
 存スルヤ否ヤヲ監視シテ濫リニ戸主ヲ廢ヤ

ニトスル弊害ヲ豫防スル必要アルニ因リ本
 案ハ裁判所ヲミテ本條ノ場合ニ於テ戸主ニ
 隠居ヲ命ゼシムルモノト爲セリ其他一家ノ
 爲メ重下ナシキ事由アルトキハ何人ト虽モ廢
 戸主ノ命令ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ル
 ニ於テハ私利私情ノ爲メニ濫リニ此請求ヲ
 爲スニ至ルハ免ルベカラサル弊害ニミテ戸
 主ノ養父母、継父母、嫡母ノ如キモ尚ホ且私情
 ニ制ヤラレテ不當ニ廢戸主ノ請求ヲ爲スコ
 トアルハ事實上疑ヲ容レサル所ナリニ因リ
 本條第一項ハ即チ廢戸主ノ請求ハ戸主ノ生
 父母ニミテ其家に在ル者ノ養親ニ基キタル

親族会ヨリ之ヲ為スコトヲ得んニ止マルヲ
以テ本則ト為セリ而シテ廢戸主ノ發議ヲ為
スコトヲ得ハ実父母ノ戸主ノ家ニ在ル者トモ
ルコトヲ要スル所以ハ假令実父母タリトモ
既に戸主ノ家ニ在ルサ人以上ハ此家ノ存立
ニ存キ散テ容喙スベキ限ニ在ルサレバヤリ」

法典調査會

亦條考ニ項ハ第一項ノ規定ニ因リ廢戸主ノ
發議ヲ為スコトヲ得ハ実父母ノ一方が知レ
サルトキ死亡シタルトキ又ハ心神喪失等ニ
因リ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ
他ノ一方ノミニテ發議ヲ為スコトヲ得ベキ
旨ヲ認メ又本條考ニ項ハ父母共ニ在リ述フ

ハ如キ状況ニ存スルトキハ父母ノ發議ナキ
モ親族會ノ請求ニ因リテ裁判所ハ戸主ニ隱
居シ余スルコトヲ得ヘキ旨ヲ認めハモノニ
テ之ニ依リテ實際ノ必要ニ應セシムルニ
ノナリ

第七百五十九條

法典調查會

(理由) 戸主カ隱居ヲ為スコトハ此類ノ債權者
及ヒ債務者ニ種々ノ利害關係ヲ及ブコト
更ニ其ヲ要スザ人所ナレバ故ニ隱居ノ效
カハ其届出ニ因リテ既ニ發生シタハモ未タ
隱居ノ事實ヲ知ラザル債權者又ハ債務者ニ
對シテ其效力ヲ主張スルコトヲ得セシムル

ニ於テハ此等ノ類ヲシテ往々不慮ノ損害ヲ
被ラレテ法律保護ノ不完全ナル點ヲ免レサ
ルベシ然レドモ隱居ハ必ズ之ヲ隱居者ノ侵
權者又ハ債務者通知スルコトヲ要ストレ又
ハ必ズ公示ノ方法ヲ盡カバルベカラズト爲
スカ如キハ顯ハ煩雜不便ニシテ實際ノ事情
ニ適マサルベシト虽モ改定法典ノ如キ此等
保護ノ方法ニ付キ別ニ何等ノ規定ヲ設ケサ
ルハ其缺點ト云ハサルベカラズ故ニ本案ハ
法律保護ノ必要ト實際ノ事情トヲ斟酌シテ
時ニ存條ノ規定ヲ設ケ隱居者又ハ家督相續
人ヨリ隱居者ノ侵權者及ビ債務者ニ隱居ノ

ノ通知ヲ爲スニ非サレハ此等ノ有ニ對シ隱
匿ノ効力ヲ主張スルコトヲ得ヌトシ之ニ依
リテ殊更ニ通知ノ義務ヲ負ハレメサハモ自
ラ通知ヲ爲スコトヲ怠ラウサウシムハト同
時ニ債権者及ニ債務者ノ利益ヲ適當ニ保護
スルモノトス

法典調査會

第七百六十條

(理由) 本條ハ隱匿以前ニ隱匿者ノ債権者ト
爲リタル者ニ對スル特別保護ヲ規定スルニ
ノミテテ債務者タル正主カ隱匿ヲ爲スニ因
リ生ジニ其債権者ノ利益ヲ害スルコト勿ク
ラシムルモノトス蓋シ正主カ隱匿ヲ爲スト

キハ其以前ニ此者ニ對シテ債權ヲ取得シ
 ハ者モ其以後ハ家督相続人ニ對シテノニ
 請ヲ請求スルコトヲ得ハニ止メハ隠居ノ
 當銀ノ結算タルニ拘ハラヌ戸主カ隠居ヲ為
 スコダリ其財産ヲ自己ノ所有トシテ之ヲ留
 保スルトキハ假令債權者カ家督相続人ニ對
 シテ自己ノ權利ヲ強行スルモ往々完全ニ辦
 済ヲ受クルコト能ハサル場合ザラシテ
 且隠居ハ即チ戸主タル身分ニ於テ負担セ
 ハ債務ヲ免カルル一方便タルニ至ラン然
 ハ斯ノ如キ弊害ヲ豫防シテ債權者ノ利益ヲ
 保護スルコトハ極メテ必要ナルニ拘ハラヌ

既成法典ハ此点ニ関シ別ニ規定ヲ設ケザル
ハ其缺點タルニ因リ本案ハ即チ從來ノ慣例
及ビ判決例等ヲ参照シテ特ニ本條ノ明文ヲ
掲ケ隱居以前ニ隱居者ノ債權者ト爲リタル
者ハ其隱居者ニ對シテ經濟ノ請求ヲ爲スコ
トヲ得ヘキ旨ヲ明カニシ且之レカ爲メニ敢
テ家督相続人ニ對スル請求ヲ妨ケサルコト
ヲ明示シ之ニ依リテ債權者ヲシテ其債權者
タル戸主カ隱居ヲ爲スコトニ因リテ意外ノ
不利益ヲ被リルコト勿カラシメタリ

第七百六十一條

(理由) 隱居ハ種々ノ法律上ノ効果ヲ生ゼシ

ムル包括的ノ法律行為タルニ外ナラザレバ
 戸主カ其侵權有リ憲スルコトヲ知リテ隱匿
 ヲ爲シタル場合ニ於テ法律ニ別段ノ規定ナ
 キ限りハ右ノ侵權者ハ所謂詐害行為ノ取消
 ニ關スル第四節ニ十四條乃至第四節ニ十五
 條ノ規定ニ因リ隱匿ノ取消ヲ請求スルコト

法典調査會

ヲ得ト云ハサルヘカラス然レトモ隱匿ノ如
 キ人ノ身分ニ關シ殊ニ種々ノ法律關係ニ重
 要ナル關係ヲ有スル包括的ノ法律行為ヲシ
 テ容易ニ之ヲ取消スエトモ訴ニ從テ永ク不
 確定ノ狀態ニ存セシムルコトハ務メテ之ヲ
 避ケサルヘカラスハノミナラズ既ニ本章ハ

適當ナル方法ニ依リ隠居ノ場合ニ於ケル債
権者ノ利益ヲ充分ニ保護シタルニ因リ假令
隠居ヲ為シタルコトカ戸主ノ詐害ノ意思ニ
基ツタトモ其債権者ヲシテ一旦成立シタル
隠居ヲモ取消スニトヲ得セシムル必要ナカ
ルベシ是レ即チ本條ニ於テ詐害行為ノ取消
ニ關スル第四百二十四條乃至第四百二十六
條ノ規定ハ隠居ニハ之ヲ適用セザル旨ヲ明
示スル所以ニシテ既成法典財産取得編第三
百九十九條乃至第四百零一條ノ規定ニ依リハ詐害ノ意思ニ
基ツテ隠居ハ戸主ヲ之ヲ為サントスル前ニ
債権者ヨリ故障ヲ申立ワルコトヲ得ルが如

り或ハ故障期間内ハ故障ノ申立ニ因リテ隠
居ヲ無効ト歸セシムルコトヲ得ルカ如ク願
ハ賸賸ナシニ因リ本業ハ本条ノ明文ニ依リ
假令詐害ノ意思ニ基ツキタ人隠居ト雖モ債
權者ヨリ其取消ヲ主張スルコトヲ得サル旨
ヲ明白ナシメタリ

法典調査會

第七百三十二條

(理由) 本條ハ既成法典財産取得編第三章十
一條但書ノ規定ト同一ノ意義ヲ有シ同ヨリ
至当ノ規定タルベシト雖モ既成法典ノ如ク
隠居者ノ終身ヲ限度トスル權利義務ト云フ
トキハ其範圍狭キニ失アル感ナキ能ハサル

ニ因リ本業ハ隱居者ノ一身ニ專屬スル權利
義務ト改メタルニ過キス

第七百六十三條

〔理由〕 本條及ヒ次條ハ戸主權喪失ノ一原因
タル廢家ニ関スル規定ヲ掲グルモノニシテ
就中本條ハ廢家ヲ為スコトヲ得んモノヲ指

法典調査會

定ニ家ヲ重ニスル立法ノ本旨ヲ全カウシム
ルモノトス蓋シ祖先ヨリ継承シタル家ヲ廢
スルコトハ極メテ重大ナル事件ニシテ我國
古來ノ風習ニ依ルモ殊ニ家ヲ以テ社會ノ基
礎ト爲ス同家主義ニ依ルモ容易ニ之ヲ許ス
ベカラザルコトハ別ニ辨明ヲ要セザル所ナ

リト虽モ新ニ一家ヲ立テクル場合ニ於テハ
 假令戸主カ之ヲ廢シテ他家ノ家族ト爲ルモ
 之レカ爲メニ敢テ家ヲ重ニス人立法ノ本旨
 ニ悖ルニ至ラヌ却テ一旦新立シタル家ハ必
 ス之ヲ維持スルコトヲ要ストセハ往々困難
 ナル事情ノ存スルアリテ實際ニ適セザル統
 果ヲ生スルコト多クカニベシ故ニ本條第一項
 ハ新ニ家ヲ立テタル者ニ限り隨意ニ其家ヲ
 廢シテ他家ニ入ルコトヲ得トシ以テ實際ノ
 事情ニ適セシメタリト虽モ家督相繼ニ因リ
 テ戸主ト爲リタル者ハ既ニ説明セシ所ノ理
 由ニ因リ決シテ此例ニ從ハシムベキニ非サ

ルヲ以テ本條ヲ二項ハ既成法典人事編ヲ二
百五十一條ノ如ク家督相続ニ因リテ戸主ト
爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得サル旨
ヲ明カセセリ且既成法典ハ此通則ニ對スル
例外トシテ本家相続其他正當ノ事由アル場
合ニハ廢家スルコトヲ得ベキ旨ヲ規定スル
モノ本家再興ノ場合ニ於テモ分家ノ戸主ヲ
シテ分家ヲ廢セシムル至當ノ理由アルニ因
リ本條ハ本條ヲ二項但書ニ於テ此趣旨ヲ以
テ明白ナラシメタリ

第七百三十四條

(理由) 本條ハ戸主ヲ適法ニ廢家シタルニ因

り其家族ニ及ホス戸籍上ノ効果ヲ規定スル
モノニシテ既成法典人事編第ニ百五十三條
ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルニ過キス

第七百六十五條

(理由) 本條ハ戸主ノ死亡ニ因リテ一家斷絶
スル場合ニ関スルモノニシテ或ハ戸主権ノ

法典調査會

喪失ニ関スル事節中ニ之ヲ掲グルハ其當ヲ
得サルニ似タリト虽モ他ニ適當ノ場所ナキ
ヲ以テ廢家ニ関スル規定ニ連續シテ之ヲ掲
ゲタリ而シテ本條ノ趣旨ハ既成法典人事編
第ニ百六十一條ト毫モ異ナハ所ナキヲ以テ
別ニ説明ヲ要セスト虽モ既成法典ノ如ク本

條ノ場合ニ於テ家族ハ總テ一家ヲ創立スル
 ニテ止ムハトハ家族ニテ他ノ有リ子
 ヲ有セ其父又ハ母ノ家ニ入ラズニテ別ニ
 一家ヲ創立シ家族ニテ妻ガ有リ者セ其夫ノ
 家ニ入ラズニテ別ニ一家ヲ創立スルコトヲ
 要スルカノ如ク解セシムルハ當然ノ結果ナ
 ルニ因リ本條ノ時ニ本條第一項但書ノ規定
 ヲ設ケ家族ニテ他ノ有リ子タル者ハ其父
 ニ隨ヒ又父ノ知レサルトキ他家ニ在ルトキ
 若リハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ
 入ルベキ旨ヲ朋カニシ又本條第一項ノ規定
 ニ依リ戸主ノ家族ニテ夫タル者カ一家ヲ

勅立ニタムトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入

ルベキ旨ヲ明カニセリ